

## ⑮ ハナアブ科

花の蜜や花粉を食べるものが多いです。デガシラバ工科のオオハチモドキバエのように、ハチに擬態したものもいます。

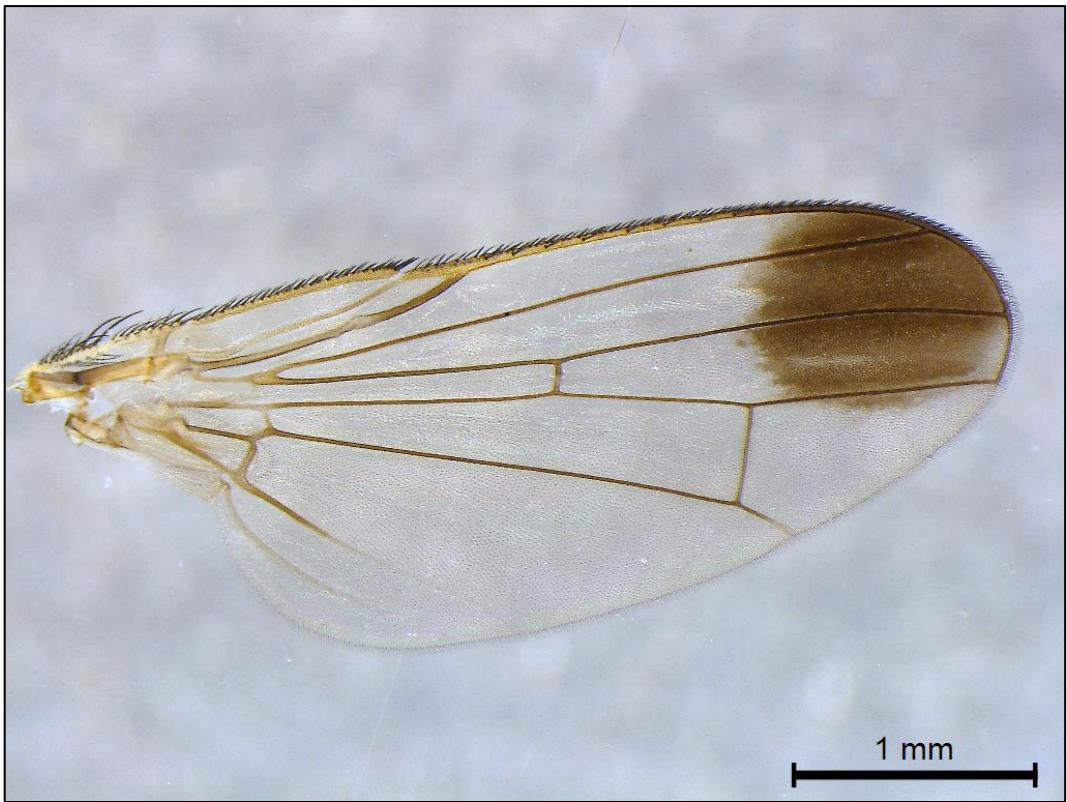




## ⑩ハナバエ科

イエバエ科やヒメイエバエ科と似ていますが別の科です。翅脈が見分けるポイントです。





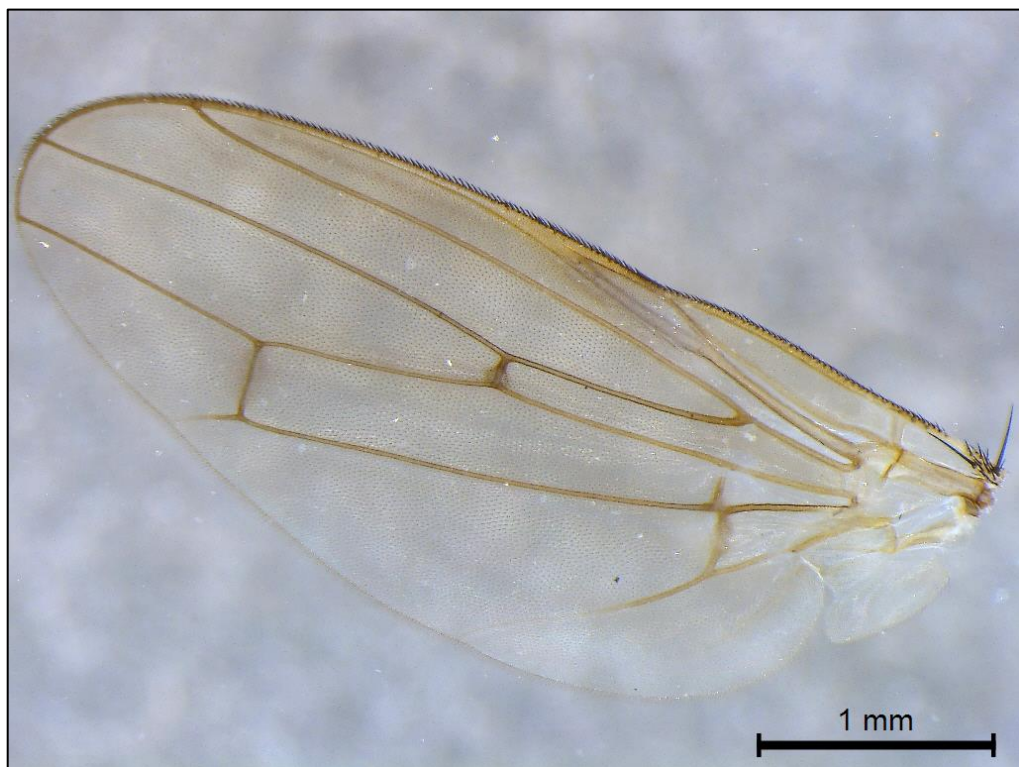
## ⑰ ハネフリバエ科

翅を振るのでハネフリバエ科といいます。なかなか面白い動きです。



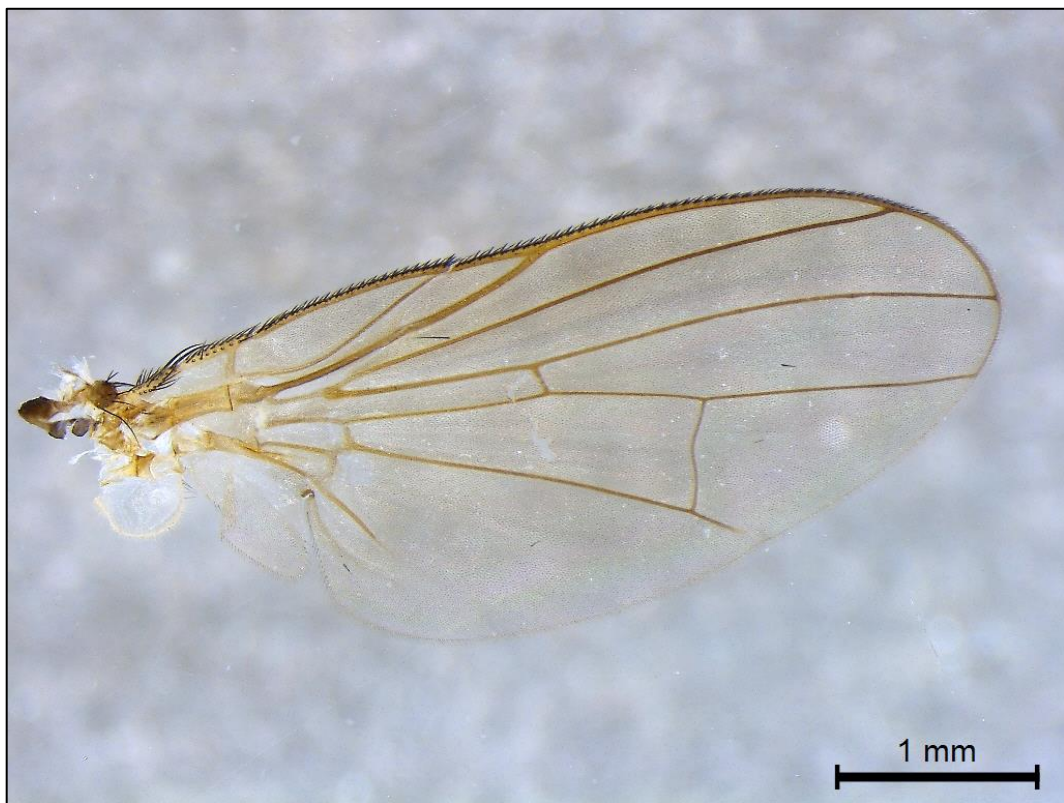
## ⑱ ハマベバエ科

海岸でよく見られるハエです。ラグビー選手のようながっしりした体が特徴的です。



## ①9 ヒメイエバエ科

イエバエ科と似ていますが別の科です。翅脈が見分けるポイントです。



### コラム13 ハエの翅脈その3

見た目の良く似たイエバエ科、ハナバエ科、ヒメイエバエ科が出そろったところで、この3つの科を翅脈を使って区別してみましょう。

次のページにはイエバエ科とハナバエ科、ヒメイエバエ科の翅の写真を載せています。注目するのは、 $A_1$  脈と  $CuA + CuP$  脈という後方の脈です。ちなみに、 $CuA + CuP$  脈というのは、 $CuA$  脈と  $CuP$  脈が融合した脈です。

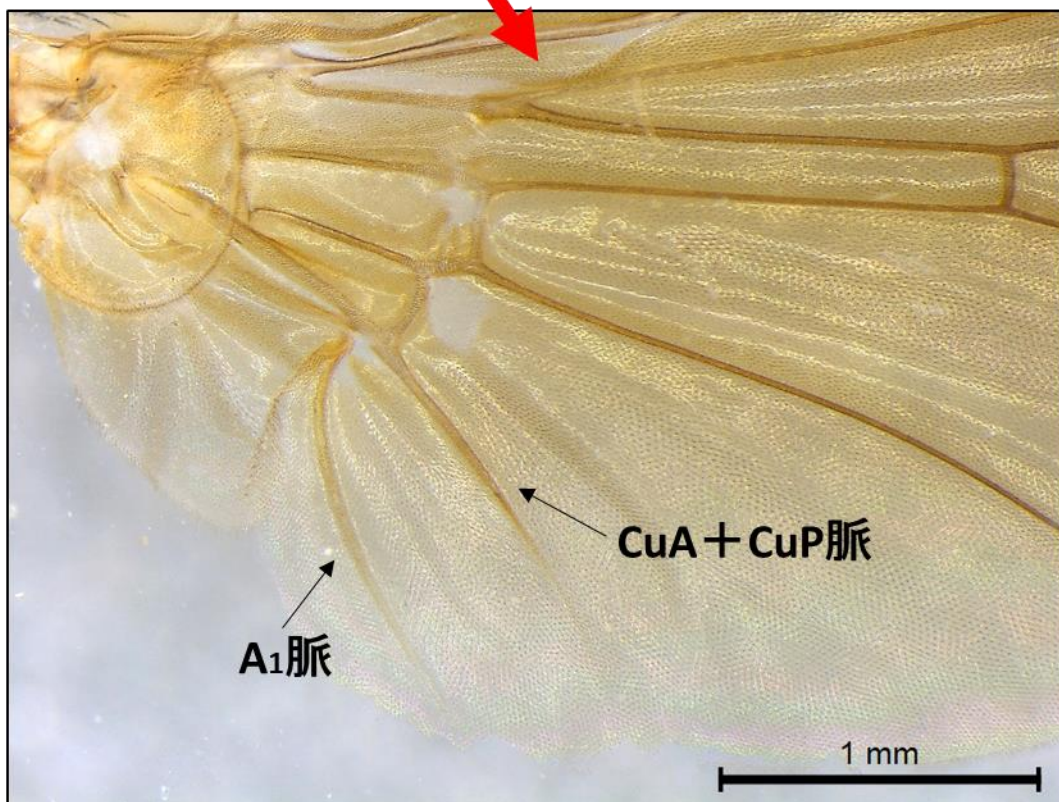
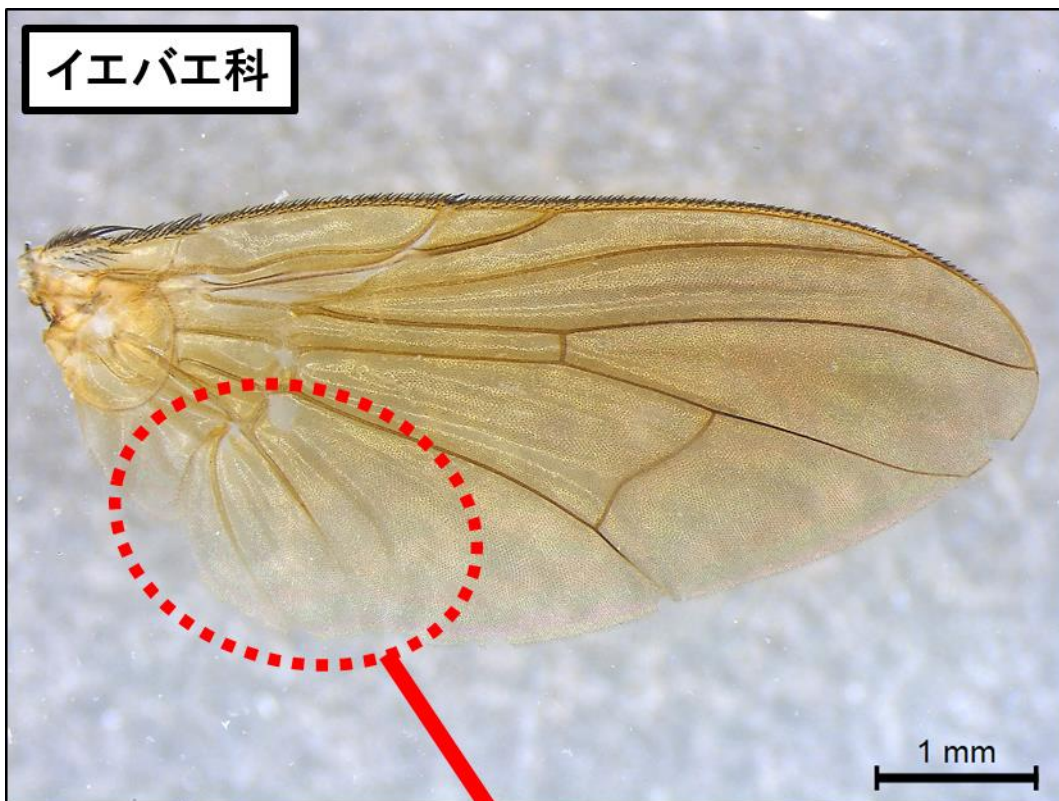
まず最初に見るのは、 $CuA + CuP$  脈が翅の後方の縁まで届いているかどうかです。イエバエ科とヒメイエバエ科は  $CuA + CuP$  脈が翅の後方の縁に届く前に消えますが、ハナバエ科は  $CuA + CuP$  脈が翅の後方の縁まで届いています（途中から薄くなっていて見づらいですが）。続いて、イエバエ科とヒメイエバエ科の違いです。 $A_1$  脈と  $CuA + CuP$  脈が途中で消えずに伸びたと仮定した時（**緑色点線**）、2つの脈が交わらなければイエバエ科、交わればヒメイエバエ科です。

ハナバエ科の中には小盾板という部位の下面に毛が生える（**水色点線内**）グループがあり、これも分類する上でポイントになります。

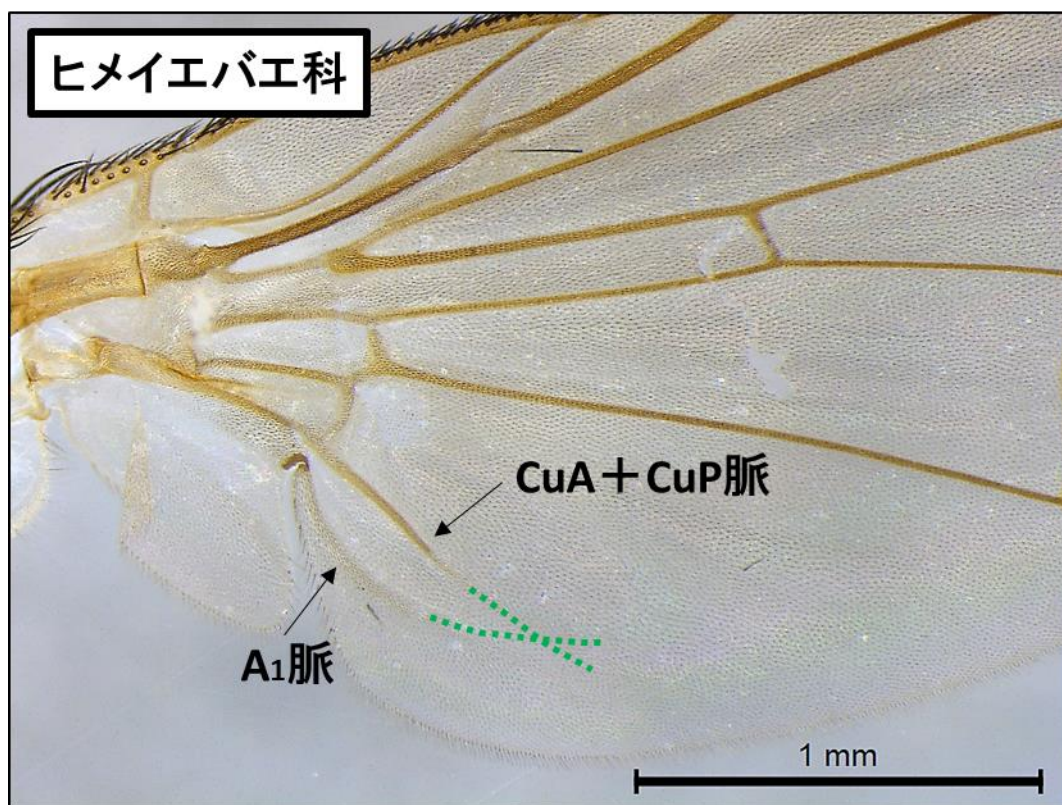
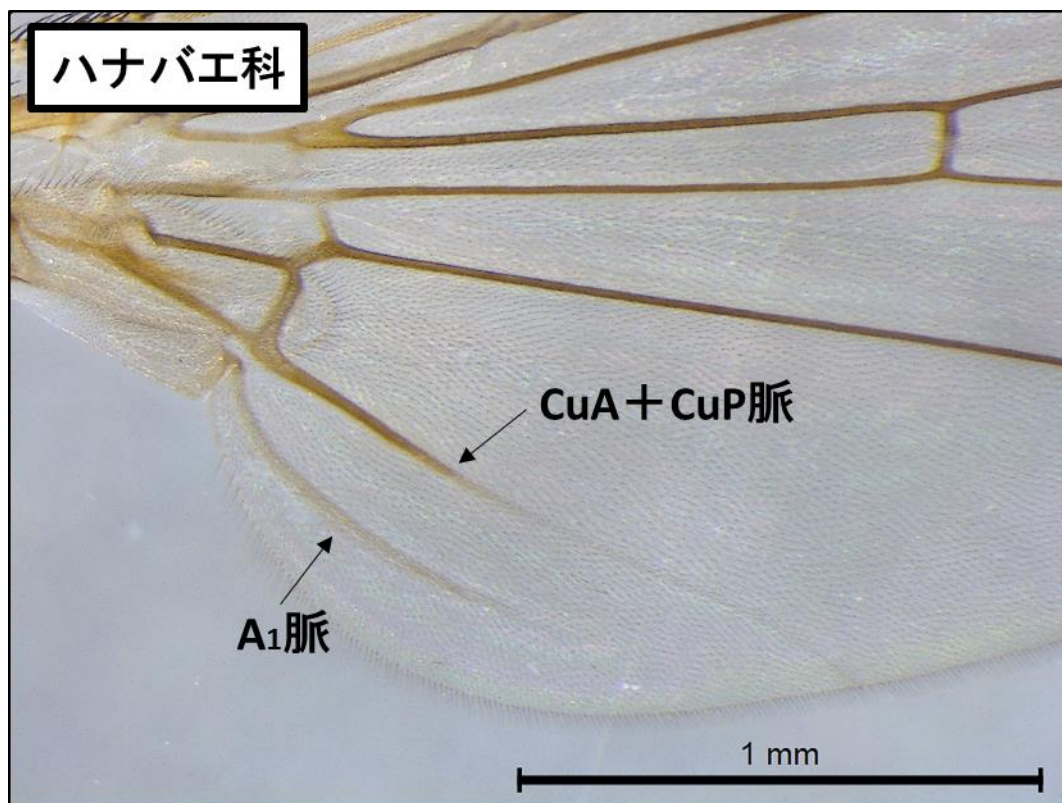


コラム13 つづき

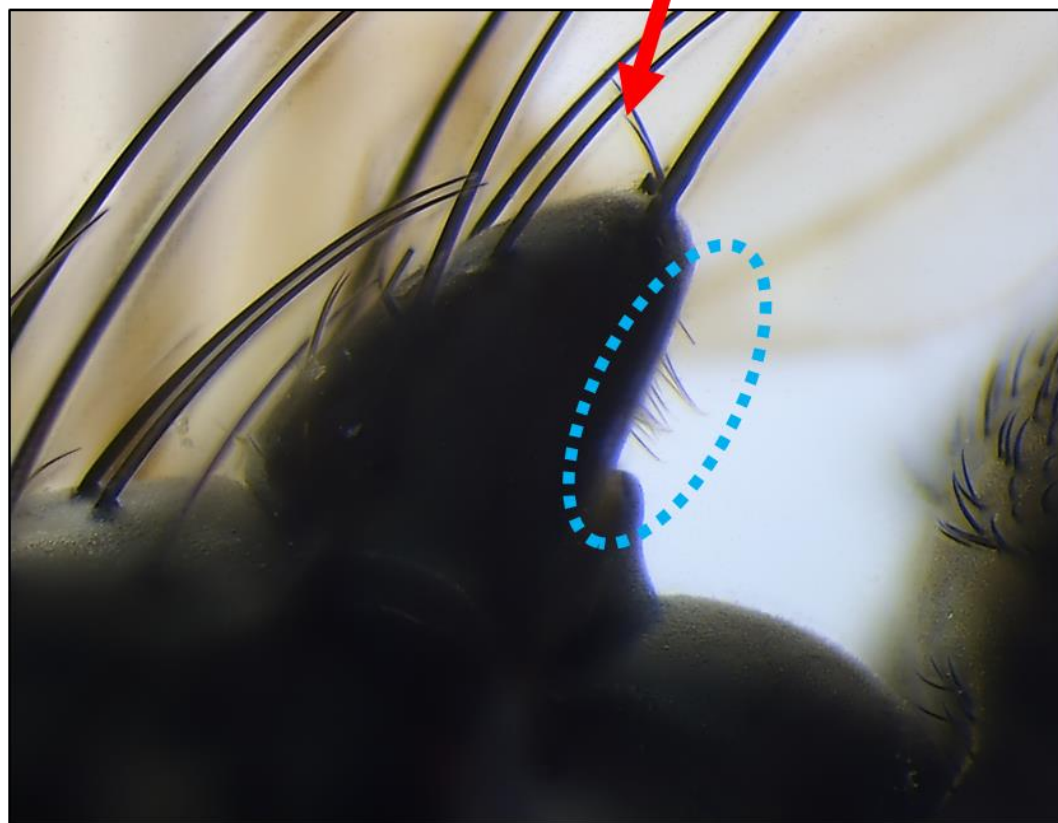
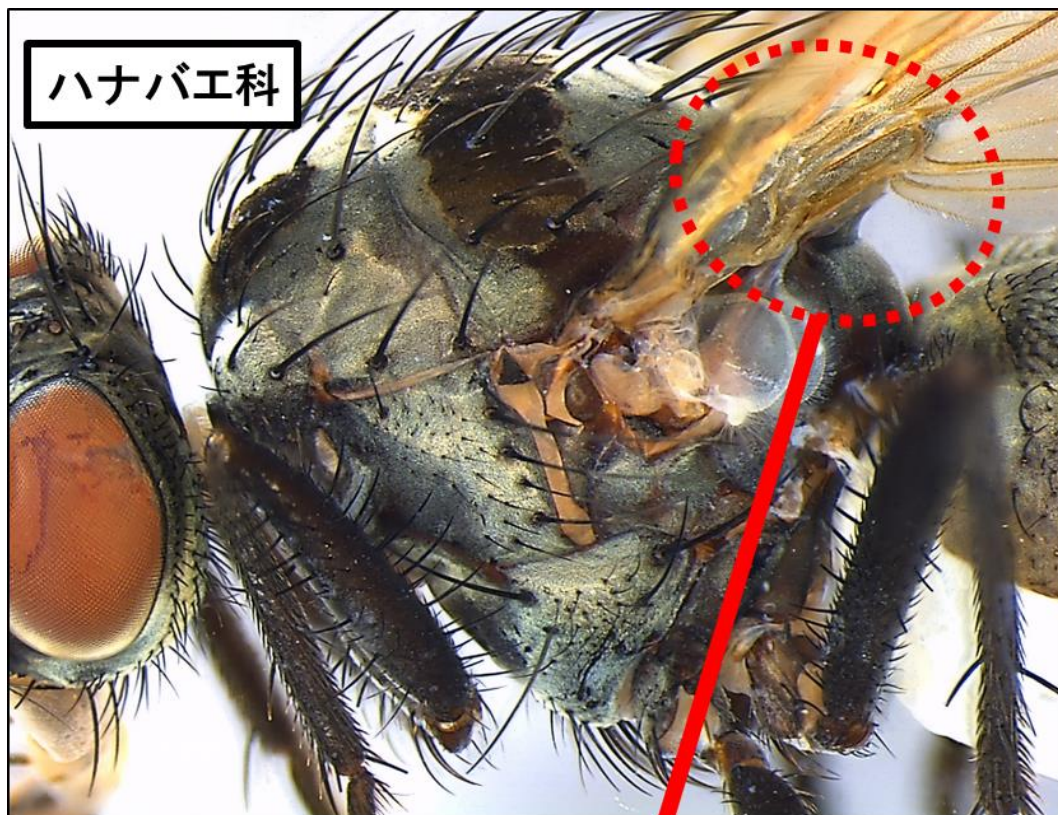
イエバエ科



コラム13 つづき

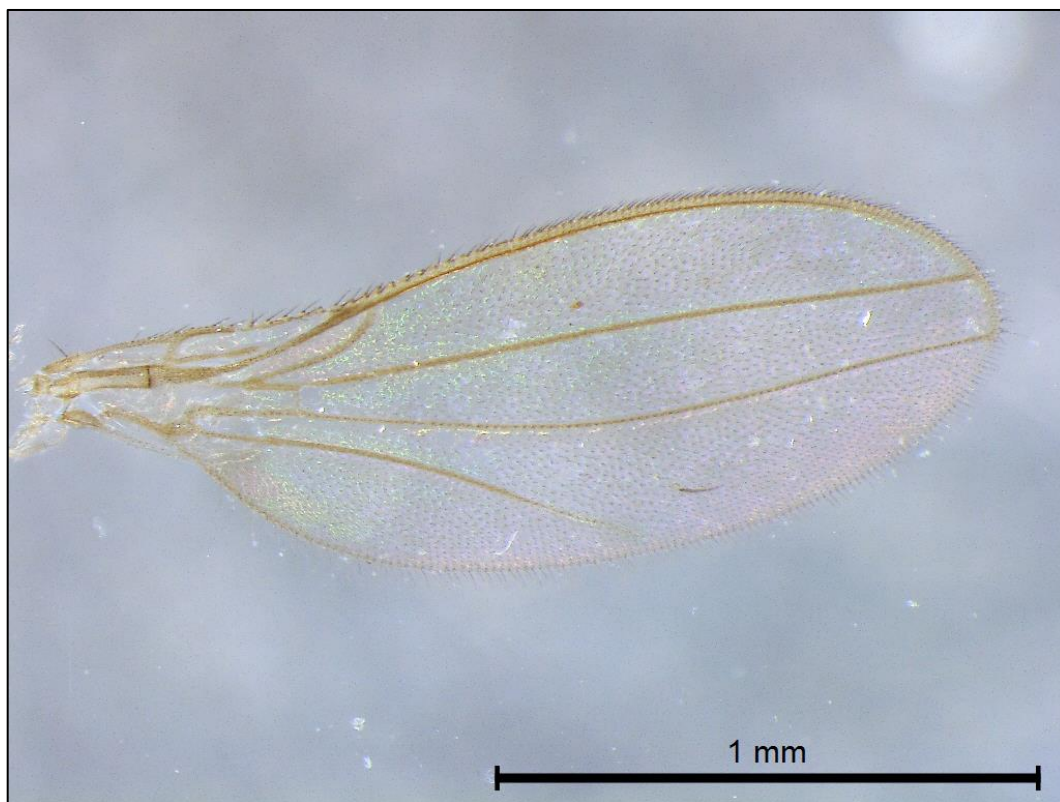
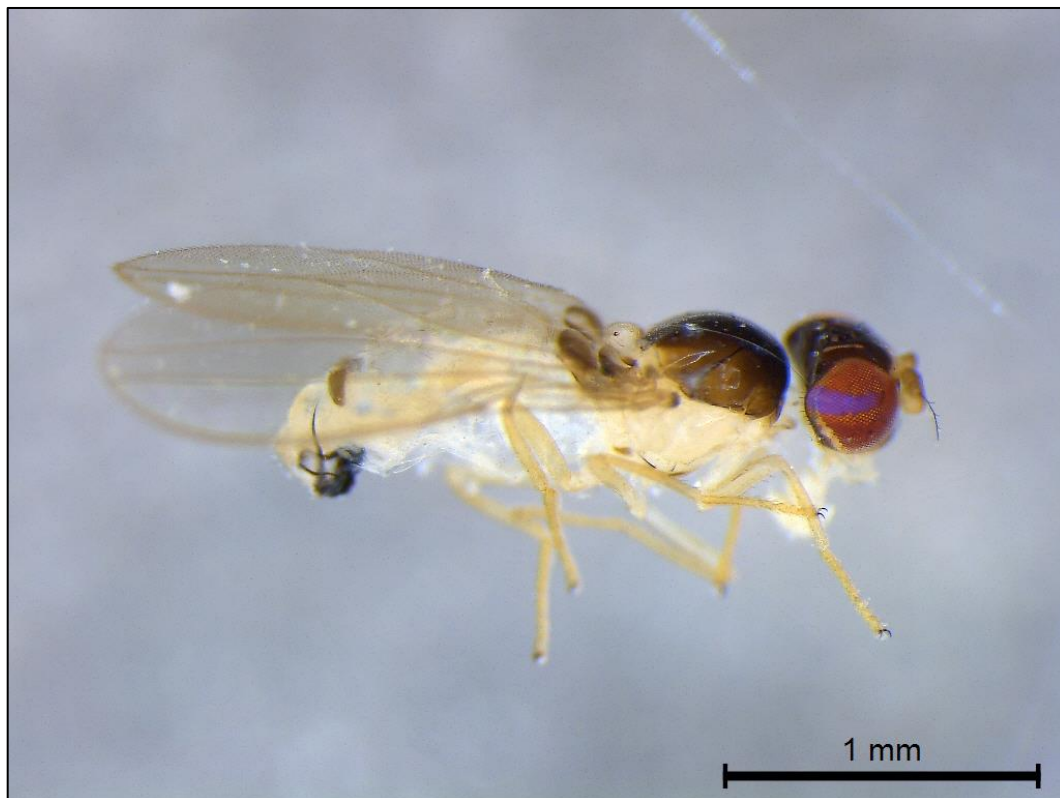


コラム13 つづき



## ②⑩ ヒメホソバエ科

とても小さいためか、あまり見かけないハエです。しかし、翅脈が非常に特徴的で個性があります。



## ②1 ヒロクチバエ科

名前のおり大きな口をしたハエです。ダイズコンリュウバエというハエは「キスをするハエ」ということで知られています





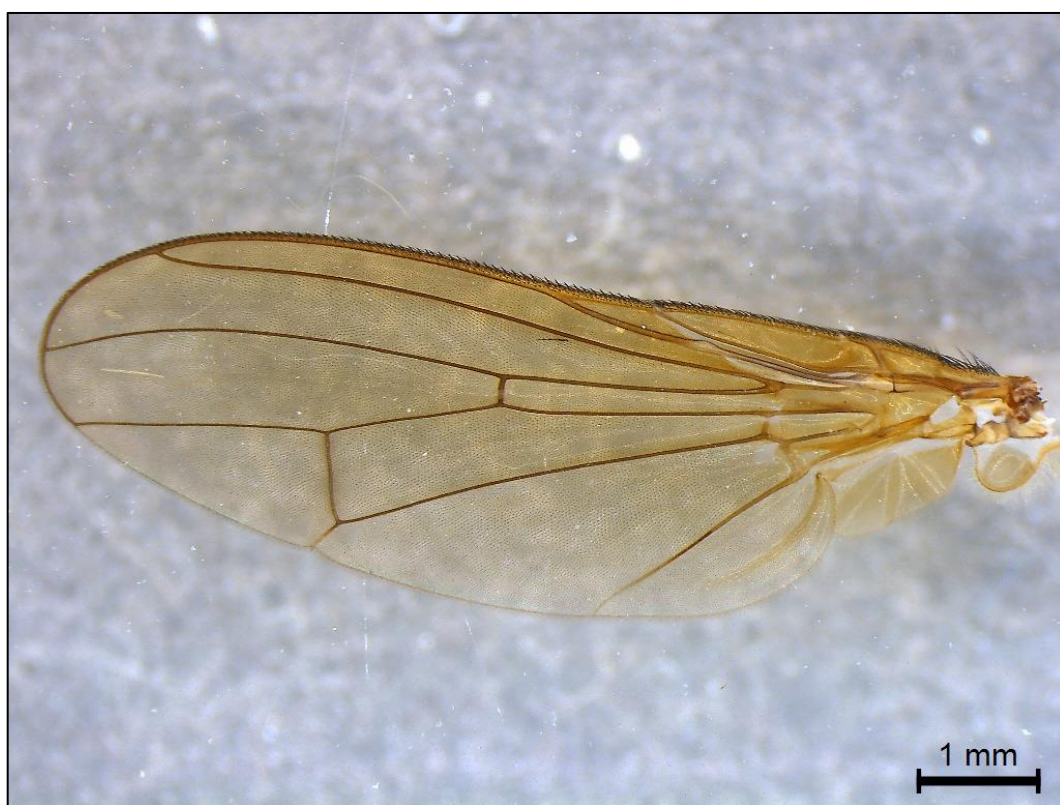
## ② フンコバエ科

フンコバエ科の“フン”は“糞”です。糞に集まる種類が多く知られています。



## ②③ フンバエ科

フンバエ科の“フン”は“糞”です。体が大きく、それでいて適度にスマートな見た目ですが、不潔なハエです。





## ②④ ベッコウバエ科

フンバエ科と同じく、見た目はやや格好いいのですが、汚いところが好きな不潔なハエです。





## ②⑤ ミギワバエ科

小さいので肉眼ではよくわかりませんが、川べりで網を振っていると、入っていることがあります。



## ②⑥ ミバ工科

きれいな見た目をした種類が多いですが、果物や野菜に卵を産み付け、ふ化した幼虫がそれらを食い荒らすということで、深刻な害虫も少なくないです。



## ②⑦ ヤドリバエ科

幼虫が他の昆虫に寄生します。寄生する相手は誰でも良いというわけでは  
ありません。





## ②⑧ ヤリバエ科

月桂樹の葉に似た形の翅をしたハエです。小さいためかあまり見かけません。



## おわりに

この資料では、50科のハエ（カのなかま：15科、アブのなかま：7科、ハエのなかま：28科）を紹介しました。日本には100科以上のハエが記録されていますので、まだ半分にも届きません。ハエの世界は広いですが、苦勞して調べて、名前が分かった時は、それなりに嬉しいものです。ハエは良くも悪くも身近な存在ですので、これを機に注目してみてもいいかもしれません。

## 参考図書

- ・平嶋 義宏、森本 桂（監修）（2008）

「原色昆虫大図鑑 Ⅲ」北隆館

- ・松崎 沙和子、武衛 和雄（2004）

「都市害虫百科」朝倉書店

- ・篠永 哲、鳶 洪（編著）（2001）

「ハエ学—多様な生活と謎を探る」東海大学出版会

